

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272200132		
法人名	有限会社グループホーム天意		
事業所名	グループホーム天意		
所在地	長崎県五島市大荒町1310番地12		
自己評価作成日	令和5年1月31日	評価結果市町村受理日	令和5年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中で、入居者様のお一人お一人が、居心地の良い、安心、安全な生活が送れるように、職員全員が入居者様と共に生活している意識を持ち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図り、ゆっくりと関わりをもつように尽力しています。
また、入居者様が、生きがいを持って自分らしく暮らせるように生活歴及び生活心情の把握に努め、お一人お一人の人格及び主体性を尊重した「きめの細かいケア」を行うように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは田畑に囲まれ四季を感じる事ができる長閑な場所に立地している。わらびや、つくしなどの山菜採りに入居者が参加する機会もあり、畑で採れた旬の野菜と共に食卓に並べている。職員は調理方法を入居者から教えてもらうこともあり、楽しみのある食事風景を実現している。隣接する同系列の有料老人ホームやデイサービス事業所と連携した支援が行われており、有料老人ホームでは感染症対策で一時退避場所として活用する等、入居者、家族にとって頼りがいのあるホームとなっている。ホームには看護師が在籍し、緊急時や、終末期には提携医と連携して対応しており、家族の安心感に繋がっている。『笑顔と元気と暖かい介護でほっとする家庭』を理念に掲げ、ゆっくりと時間をかけながら入居者それぞれの性格を見極め、その方の状況や置かれている環境を把握した上で、困っていることや不安に思っていることを理解し、「きめの細かいケア」で入居者に寄り添った支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔と元気と暖かい介護でほっとする家庭」という理念に日々の介護を照らし合わせ、管理者及び職員全員が情報を共有し、この理念を目標に努力している。	職員は朝礼時に理念を唱和している。理念の根幹にある「一日に一度は皆で笑いあえる生活」を目標に、管理者、介護支援専門員や職員と話し合い、理念に沿いながら行事等を計画し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまでは、町内の運動会やお祭り等の行事には積極的に参加し、地域の人々との触れ合い交流を図っていたが、コロナ禍の今年度は感染防止のため、自粛した。	ホームは町内会に加入し、空き瓶回収等の際には職員が参加している。コロナ禍で地域住民と積極的な交流を自粛している為、隣接する有料老人ホームやデイサービス利用者、当ホームの入居者、職員が合同で毎月ミニ運動会を開催している。以前は保育園児も参加した大運動会を開催していたが、現在は難しい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会に来られた方、地域の方々から相談を受けた時は、マスク、プロテクト等のコロナ感染防止対策を十分に実施したうえで、認知症の理解や支援の方法をアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、施設及び利用者の状況報告を行うとともに、参加者の意見を取り入れ、サービスの向上に活用している。	コロナ禍の為、運営推進会議は書面会議にて開催している。開催の案内状に意見書を同封して各委員へ送付し、委員からの意見を踏まえ、後日、会議録を各委員へ持参している。委員から五島弁による言葉づかいにも一定の配慮が必要ではないかとの意見が挙がり、職員の振り返りに活かすなどサービスの向上に活用できている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の生活保護、障害担当者に手帳の更新・医療権の発行受診等、各種手続きについて積極的に連絡相談を行い、緊密な協力関係を構築している。	管理者はホームの各種関係書類の提出等で市担当窓口を訪問し、コロナ禍の中、感染対策に関する助言や相談等、必要に応じた緊密な協力関係を築いている。後見人制度を利用する入居者には担当社会福祉士が定期的に訪問しており、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で身体拘束の意味を理解し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。夜間のみ施錠を行い、安全・防犯に徹している。	身体拘束適正化指針を整備し、職員に周知を図っている。身体拘束に関し、新人職員研修及び年2回の職員研修を実施している。外部研修に参加した場合は、参加した職員が報告書を作成し、参考資料と共に全職員に伝達研修を行っている。現在、虐待防止に関する委員会の設置や指針の整備に関し、次年度に向けて法人全体で整備を進めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対許されないという信念を職員全員に徹底させ、職員間の意思疎通・情報共有に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見制度について、担当職員に質問し、権利擁護に関する理解を深めるとともに、家族の相談にも真摯に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に十分な説明を行い、疑問点にも答えている。入所後は気軽に相談できる雰囲気醸成し、不平不満等があれば、躊躇することなく申し出るように常日頃から言っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常会話の中で、利用者様の意見、要望を掌握し、家族の面会時にも家族の要望の把握に努めている。管理者及び職員全員でその情報を共有し、日常業務に積極的に反映している。。	木製の意見箱を玄関に設置している。コロナ禍によりこれまで家族とは窓越しの面会を実施していたが、現在は島内在住者に限定し玄関での面会ができている。家族から挙がった要望や、入居者の支援に必要な情報は、業務日誌、個人ファイルに残し、職員間で共有を図っている。	外部評価調査時に行う家族アンケートを活用して意見を反映できる機会があることを含め、重要事項説明時に第三者(外部)評価の受審状況を重要事項説明書において第三者(外部)評価実施の有無・実施した直近年月日・評価機関名称・開示状況を記載し、説明することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定期的に行い、職員に意見や提案を自由に述べさせ、風通しの良い職場づくりに努めている。職員の意見は前向きに検討し、業務改善の参考としている。	職員会議は入居者の支援に関する事、行事内容の検討、反省等も含め議題に挙げ、職員の意見や提案を出し合い話し合っている。管理者とは気軽に相談ができる関係を築き、個人的な相談にも応じている。職員の休暇や休憩時間等を確保するなど労働環境に配慮している。	介護現場においてハラスメント対策の強化が求められていること踏まえ、職員の意見や提案がより円滑にできる職場環境の整備に繋げる為にも、ハラスメント対策について、事業者の方針等の明確化及びその周知・啓発や、相談や苦情に応じ、適切に対応するために必要な体制の整備等、組織的に取り組むことを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員の努力、勤務実績等を注意深く観察することにより正当な評価に努め、各人が楽しく働き甲斐のある職場環境及び労働条件の整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の技量に応じた段階的な研修参加を促している。日常の勤務を通じて知識・スキルを身に付け更に向上させるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームに関する研修会や交流会等に参加し、他の事業者の良いところは積極的に取り入れ、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に施設を見学してもらい、面談を通じて本人の要望と不安に思っていることをしっかり聞き、その不安感を取り除くように努めている。不安の背景にも深く思いをいたし、お互いの信頼関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族と面談し、本人や家族の意向をできる限り実現していけるよう取り組んでいる。入所後は些細なことでも家族に連絡相談するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所面談時、本人及び家族の要望を傾聴し必要に応じて連携施設や他の事業所等の支援制度について説明し助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることや思いを尊重し、食事の準備、後片付け、リハビリ体操、レクレーション等を行うことにより、本人と職員が一体感を持ち、相互支援関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時、或いは電話・手紙等により本人の日頃の状況を報告し、家族の不安感の除去に努めている。本人の誕生会や行事の時は一緒に楽しんでもらえるよう参加をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と一緒に自宅付近をドライブしたり、馴染みの店に出かけたりしていたが、本年はコロナ禍により外出を自粛した。家族、馴染みの人には手紙や電話連絡できる機会を設けている。	ホームの近くに墓地を所有する入居者にはその方の希望に応じて、職員が同行して墓参りを行っている。コロナ禍前は、買物支援のほか、ホームに家族等を招きバーベキューを行うなど交流していた。現在は中止しているが、コロナ収束後には再開する方針である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格・特徴等を考慮してレクリエーション及び食事の時の座席配置を工夫し、利用者同士が楽しく互いに助け合うような環境整備に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者がホームを退去された後も、病院や家族にこれまでの状態やケア内容を伝え、本人の不安が軽減できるように努めている。その後の様子を家族に聞き、適切なアドバイスを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望を尊重し、本人が生きがいを持って生活できるよう支援している。	入居者の状況に関し、事前に聞き取り調査を行い、入居者との日々の会話や、家族との面会時に要望を把握している。意思表示が困難な入居者の場合は家族にも確認すると共に、職員の声かけに対する反応を見て本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族とも話しやすい関係を築き、家族から入居者の生活歴や趣味等を把握し、安心して生活できるような生活環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状態変化を詳細に観察記録し、申し送りによって職員全員が利用者様の状態を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者が望む暮らしと、その方が持つ残存能力を活かし、入居者自らが自己の役割を自覚し、自主的に行動できるようなケアプランを作成するよう努めている。ケアカンファレンスを通じ、入居者が主体性をもって生活できることを重視し、全職員で共通認識のもと、取り組んでいる。	入居者毎に担当職員を配置している。職員が日々の支援の中で気づいた点を介護支援専門員と共有を図り、管理者、看護師も含めた担当者会議を経て介護計画を立案している。介護記録には介護計画のサービス内容、バイタル(血圧、脈拍、呼吸、体温)排泄、飲水、食事状況等を一覧表にして、その方の現状が分かるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画の実践状況を記録している。申し送り、業務日誌等で情報を共有し、きめ細かなケアと介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて受診援助や家への帰宅、友人宅への訪問援助を行い、欲しいものがあれば一緒に買い物に出かける等、その都度柔軟に対応していたが、本年はコロナ禍により自粛した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、馴染みの店や場所での触れ合いを通じ、自分らしく生きがいを持った豊かな暮らしができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と良好な関係を築き、定期回診及び夜間の急変時にも対応していただけるような医療連携に取り組んでいる。	月に1度、提携医による訪問診療が行われている。眼科、皮膚科、歯科等の受診には職員が同行している。夜間の緊急時はホームの看護師を通じ提携医の指示を受けている。薬局から処方薬の配達も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の介護を通じて利用者の体調の変化を注意深く観察し、異変に気づいた場合は速やかに看護職に報告相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、本人が安心して治療できるように、本人の詳細な情報を病院に提供している。入院後は職員が可能な限り面会し、本人の精神的ケアに務めるとともに、病院関係者との情報交換に心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のあり方を本人・家族と話し合い、本人・家族の意向をお聞きしている。重度化した場合は、状態に応じて家族、主治医に相談し、方針の共有に努めている。	看取りに関する指針を整備し、家族からの同意書に基づき対応している。ホームに看護師が在籍しており、提携医の指示及び医療機器の手配による看取りの体制を整備している。看取りの時期は提携医が判断し、ホーム全体で方針の共有に努めている。介護支援専門員がターミナルケアの研修を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当および初期対応については、看護師による介護職員全員に対する教育訓練を定期的に行っており、急変時は状況に応じて医師に連絡し、対応を求めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害時の避難訓練は、年2回消防署職員の参加のもと、総合訓練(通報・非難・消火)を意欲的に実施している。実施後は、消防署職員の指導を参考に不具合事項の是正に努めている。	点検業者、消防署立会いの下、昼間及び夜間を想定した避難訓練を実施している。ホームの位置を記したハザードマップをホール壁面に掲示している。緊急時は社長宅直結の通報及び職員連絡体制を整備している。避難計画書に沿った自然災害の訓練については実施できていない。	自然災害の訓練については実施できていないので、今後、訓練や机上の勉強会等具体的に取り組むことが望まれる。更に、緊急避難時に持ち出す入居者の情報が分かる一覧表を整備することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴及び性格を把握し、その方の人格、プライド、プライバシーを尊重した話しかけ、対応に心掛けている。	入居者写真の使用について、家族へ説明し同意書を取得している。職員には個人情報保護に関する誓約書を徴求している。不要になった書類はシュレッダーにかけ、焼却処理している。職員が居室に入居する際は、プライバシーに配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気兼ねせず、希望や思いを発言できるよう働きかけ、意思疎通が困難な場合は指差し等、ジェスチャーで本人の希望に沿うように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々利用者の体調を把握し、各人の体調、意向に合わせた生活ペース(食事・レクリエーション等)の介護支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から利用者の容姿に関心を持つとともに、一人一人の個性を大切に、本人の好む服装、身だしなみ、おしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話により、個々の食事の好みを把握し、可能な限り希望に沿えるよう努力している。簡単な調理と下ごしらえ、食事の準備、後片付け等は一緒に行っている。	調理担当職員が3食分を調理している。季節を感じられる旬の食材を使用し、入居者が簡単な調理を行ったり、味見するなど、家庭的な環境で食事を摂っている。本人の嚥下状態に応じて、刻み食のほか、希望のメニュー、行事食にも対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の都度、各自の主食・副食・水分の摂取量を把握し、摂取の低下が見られた場合は、体調を考慮して本人が好む補食等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯洗浄等の口腔ケアを行っている。できる限り本人にやらせ、本人が出来ないところは、職員が支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立で排泄できない方の排泄パターンを把握し、個々の能力に応じた排泄援助を行うことにより、できるだけ自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄介助時は目隠し用のカーテンを使用している。共用空間での失禁時は、職員がその方の羞恥心やプライバシーに配慮し、さりげない誘導を行っている。夜間帯は3時間毎に見回りを行い排泄状況を確認している。パッドは入居者毎に適切なサイズのものを使用するよう心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に食物繊維の多い食べ物や乳製品を提供し、水分の摂取と運動への働きかけに努め、必要に応じて下剤の服用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆったりと入浴を楽しめるように十分な入浴時間の確保に努めている。本人の希望する時間帯を考慮し、入浴順番を決めている。	入浴は職員1名で介助を行っており、全入居者が週3回入浴している。浴室と脱衣室との温度差に配慮し、冷暖房器具を設置・使用している。皮膚疾患がある方には、入浴順、個別のマットを使用し対応している。入浴の楽しみの一つとして入浴剤を使用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や十分な睡眠がとれるよう、季節に応じた衣類、寝具、室温調整を行い、気持ちよく安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の申し送り連絡ノートにより、個々の服薬状況と症状の変化を確認共有している。常用している薬に関しては職員が確認できる場所に配置し、服薬管理の徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の得意分野(料理・レクリエーション・新聞折等)で力を発揮してもらうことによって生きがいを感じてもらおうと同時に、気分転換も図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の変化に応じ、天候や利用者の当日の体調を考慮し、希望に沿った外出支援に取り組んでいる。	好天時は長椅子をホーム前の駐車場に出し、日光浴をしたり、近隣の田畑へ山菜採りに出かけるなど入居者の気分転換を図っている。雨天時により外出が困難な場合は、トランプを使ったレクリエーションを行うなど工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理能力がある方には、本人にお金を所持させ、必要に応じて管理支援を行っている。金銭管理能力のない方については、本人家族の了解のうえでお金を預かり、買い物支援等に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族及び友人の方への電話連絡は、本人の希望に応じて、いつでも電話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、利用者や面会に来られた方に不快な思いをさせることがないように、整理・整頓・清掃を徹底している。観葉植物および季節感を感じられる飾り物を配置する等、居心地よく過ごせるように努めている。	日当たりの良いリビングは掃き出し窓になっており、採光面でも優れている。テレビは舞台形式になった見やすい場所に配置し、入居者はテレビを見たり、思いおもいの場所で談笑するなど穏やかに過ごされている。また、空気清浄機及び加湿器を設置すると共に、コロナ感染症対策により定期的な清掃と換気を行い、居心地の良い空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの場所(食堂・ホール・和室)で利用者同士が談話したり、テレビを觀賞したりする等、独りで或いは仲間で楽しめる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が大事にしている物や使い慣れた道具等を持ち込んで頂き、本人が安心して気持ちよく生活できるような居室空間をつくれるように取り組んでいる。	居室は毎朝掃除機掛けと次亜塩素酸水によるモップ掛け、換気を行い、清潔保持に努めている。火気類、刃物類など居室への持込み不可の物は、入居時に家族へ説明している。居室には入居者が希望する小家具、馴染みの品、家族写真等が持込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体能力、生活能力に応じて安全かつ自立できる生活環境の整備に努めている。トイレや居室の場所が分かり易いように絵で表示する等、創意工夫を図っている。		